



5月30日(水)

シビックプライドあふれる取り組みです  
 <<市長応接室>>

中学2年時から楽寿園内の展示 SL の整備などのボランティア活動を行う一杉夏来さん<sup>ひとすぎなつき</sup>と、平成13年から松並木と一里塚を守る会の活動に参加し、環境美化に努める錦田中学校が、春季善行表彰を受賞しました。皆さんの取り組みは、地域のきずなづくりのよき模範となっています。



5月26日(土)・27日(日)

笑顔の花が咲く  
 <<楽寿園ほか市街地>>

ガーデンシティみしまの取り組みの一環として開催した「第6回みしま花のまちフェア」は、天候に恵まれ、市内のいたるところに設置された花のオブジェの前で撮影を楽しむ人たちの笑顔で溢れていました。



6月10日(日)

歯と口から健康に！  
 <<生涯学習センター>>

お口の健康づくりに関する知識の普及・啓発を目的に「第32回歯と口の健康まつり」を開催しました。歯科医師による無料歯科健診、歯科衛生士によるブラッシング指導などに長蛇の列ができ、さまざまな世代の皆さんが歯と口の健康について考えました。

市公式 Facebook ページでお届けしている記事から、話題のものを掲載しています。



5月31日(木)

日ごろの訓練の成果を披露  
 <<三島消防署>>

富士山南東消防組合隊員の訓練成果を調査する「査閲会」が行われました。上空約10メートルの高さの「ロープブリッジ渡過」や、狭い通路を潜り抜け煙に巻かれた人を救助する「ほふく救出」などを披露しました。隊員たちの真剣な姿は凛々しく、頼もしいものでした。

# 歴史の小箱

No.362

いんわと探訪

錦田地域 塚原新田

今回は三島の村々にスポットをあてる「ふるさと探訪」シリーズの続きとして、錦田地域の塚原新田を特集します。

東海道箱根西坂の入口に位置する塚原新田は、江戸時代の初めに成立した「坂五ヶ新田」の一つです。幕府が箱根山越えのルートを整備するなかで、周辺の村々の二男・三男を募り、村づくりを進めさせて成立した村です。この「塚原」という名前は、村内に荒れた塚(土を小高く盛って築いた墓)が多かったことにより名づけられたといわれています。

江戸時代の塚原新田の人たちは、山を開拓した畑で農業を営むかたわら、箱根路を行く旅人を相手に商売を営んだり、労働力を提供することで生計を立てていました。茶屋・木賃宿(薪

代だけを支払って食事は自炊でまかなう宿)の経営や人足・駕籠かきといった物・人の輸送業に携わっていたようです。

さて、塚原新田のほぼ中央に、「普門庵」と呼ばれるお堂があります。江戸時代には神奈川県伊勢原市にある天台宗寺院浄発願寺の末寺でした。本尊は観音菩薩の坐像です。江戸時代の中ごろ、元禄年間(一六八八〜一七〇四)あたりに造られたと考えられていて、左手に蓮華の蕾を持ち、右手はそれに添える形をとる穏やかな像です。この普門庵の創建については二つの説が伝わっています。

一つめの説は、鉄牛という人物の奇跡を発端とする伝承です。鉄牛が観音像を背負って京都を目指した際、塚原新田で休憩をとりました。ふたたび歩き出そうとしたところ、だんだん観音像が重くなっていき、一歩も動けなくなってしまうしました。そこで鉄牛は、「これは観



▲普門庵 本尊  
観音菩薩坐像

音様がこの地に留まることを望まれているのだろう」と悟り、お堂を建て、本尊として安置したことはじまる、というものです。

二つめの説は、浄発願寺の住職の奇跡を発端とするものです。東海道を旅していた住職は、箱根の山越えで塚原新田を通過しました。そのとき北東方向に五光を発する金の像を見つけ、お堂を建てて本尊として安置した、というものです。

この二つの説のどちらが史実に近いのか、今となってはわかりませんが、普門庵の本尊の観音菩薩像は長い時を経て現在もおお、変わることもなく塚原新田の人々に大切にされています。普門庵では月に一度、地元の女性たちが集まり、念仏を唱える観音講が行われています。講の定員は定められていて、欠員が出たら新しい人が加わるなど、昔からの方法で観音菩薩を守り伝えていきます。

※なお、普門庵は現在再建工事中で、七月中に工事を終える予定です。

## わたしのおばあちゃん

当番 のち ゆうなさん

私のおばあちゃんは、園芸が得意です。

庭の畑には、たくさんのお花が植えてあります。季節ごとに、色々な種類の花を育てていて、いつでも畑が輝いています。

おばあちゃんは、他にも野菜を育てていて、きぬさや、柿、とうもろこしなど、たくさん育てています。

私もおばあちゃんのように、植物を大切にし、いつまでも畑や庭を輝かせていきたいです。



野知 涼子

野知 悠那(徳倉小6年)